

# 太田東西かわら版

2019.12

## 悲しい出来事から学び 新しい出会いを得る



ここは8月に琴海戸根にオープンした  
パワースポット<なごみの杜マーヤ>  
ご夫妻はオーナーの溝上さん。

ドッグランを併設する、人間とペット  
生き物すべての心身が癒される場所です。  
その誕生に最も貢献したのが、右の写真  
我が家の愛犬ナッツなのでした。



そのナッツは8歳。  
今年6月号の太田東西かわら版の  
表紙も飾りました。

「幸せな人は皆、気分転換がうまい」

<http://www.ohta-tozai.com/pdf/kawara2019.7.pdf#zoom=100>

犬と一緒に大分県の由布岳の山頂まで  
“ノリで”登った！という内容でした。



それから3ヶ月後。まさか  
ナッツを失う悲しみに遭遇するとは、思ってもみませんでした。

振り返れば8年前、犬を飼ったのは自分の「孤独感」からでした。  
いいえ、家族には恵まれていましたし、経済的にも順調でした。  
しかし心の充足はずっと得られませんでした。  
それは「その人の考え方生き方が、その人の病気の根本原因」という  
自分の信念に共感してもらえる人がほとんどいなかったからです。

もっと言えば、漢方相談を通じて「薬だけで病気は治らない、治るわけがない！」  
という“薬剤師らしくない結論”に至り、その確信を持って薬剤師の勉強会で  
講師活動をしていたある日、脅迫文が届きました。

「これ以上、そんな趣旨の話をするなら薬局をつぶすぞ！」といった内容。  
“出る杭は打たれる”。悲しいかな、医療業界も例外ではありません。

「この病気にはこんな漢方が効きますよ～～！この処方でたくさんの患者が  
治って、売上も大幅アップ間違いなしですよ～～！！」  
そんな俗世のもうけ話をしていれば、嫌な思いをすることもなかったでしょう。

「その人の考え方生き方がその人の病気の原因」

病気を根本から治したいならば、深い自己洞察、今の自分の考え方生き方の  
反省こそが、薬よりも何よりも求められるわけですが、誰でも自分を悪く言わ  
れたくない。それを指摘すれば、逆ギレ（ムカツク！）されたり、自己憐憫  
（どうせ私なんて・・・）されたり。

そんな時に、たまたまペットショップで  
ナッツに出会ったのでした。  
「千載一遇の想い」とはこのこと。  
ナッツはそんな私の虚無感・孤独感を  
満たしてくれる母性的存在になりました。



先に開催したマーヤ10周年記念祭で『愛犬ナッツとの死別で学んだこと』お話をさせていただきましたが、話しながら涙があふれてきました。いつもの薬局の講演会は、“笑いと学び”で終わる。それが今回初めて“涙と感動”で終わった。妻だけではなくお客様の目もうるんでいた・・・

死別は悲しい出来事でしたが、これまでにない場を経験していただけたのではないかと考えています。これもナッツのおかげです。



先の〈なごみの杜マーヤ〉の発想は、私が犬を飼っていたからこそ、同じ愛犬家の溝上さんご夫妻に提言できたことです。ナッツを飼っていなければそのアイデアどころか出会いも無かったかもしれません。

“仲人役”になってくれたナッツ。オープンからわずか2ヵ月後に、その地で眠りにつくことになりました・・・

私たち夫婦は、一生分の涙を流したくらい泣き明かしました。それほどナッツは、私たち夫婦に「無償の愛」を与えてくれたからです。しかし！

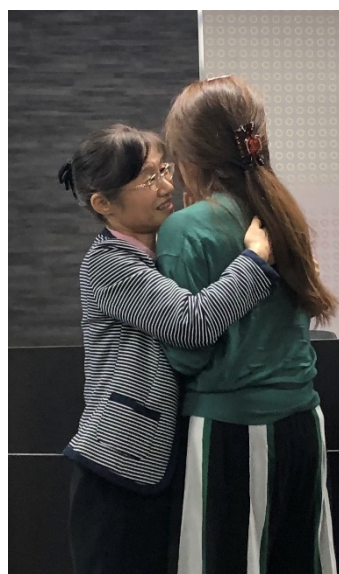
メソメソクヨクヨのマイナス思考人生は太田東西薬局らしくありません。「ナッツは何を残し、何を教えてくれたらう？」

ナッツを看病し看取った経験から、答えが出ました。それは「母性には育む母性だけではなく、『看取る母性』もある」ということでした。草花に例えれば、種をまいて成長を育む母性もあれば、枯れ果てるまで寄り添う『看取る母性』もあるということ。

そんな時に、妻の縁で出会ったのが日本看取り士会会長の柴田久美子さん。その柴田さんの講座が11月東京であると知り夫婦で上京し受講してきました。内容もさることながら、“元祖看取り士”にふさわしい、母性あふれる女性でした。

右の写真は、悲しみ癒えない妻を柴田さんが包容されている場面です（泣）

ナッツのおかげで、たくさんの人たちの優しさ温かさに触れることができました。





## 失ったからこそ、得たものもある。

私たち夫婦は愛犬を失って、「看取り」という体験を得ました。

ナッツへの治療には、自然療法を選択して、その時できるすべてを出し切り後悔はありませんでしたが、飼い主としての接し方には後悔が残りました。日に日に衰弱していく愛犬に対して、飼い主側の不安や恐れが大きくなってそれがナッツに伝わってしまっていた・・・そう反省しました。

「絶対に治すぞ!」「絶対に死なせない!」「死なせるもんか~!」

それは愛ではなく、生に執着する人間のエゴだということも学びました。

「看取り」とか何か？

不安や恐れを「安らぎ」に変えていく行為。生にこだわり、死に絶望するのではなく、安らぎと温かみあふれる生から死への移行。

旅立つ側にも看取る側にも、双方に「感謝と満足」が残るような最期。

愛犬ナッツとの死別という実体験から学んで、看取り士柴田久美子さんとの新しい出会いを得ました。そして・・・・・・・・

「もう一度、看取り直したい」という思いが強くなっていた11月23日。行き場を失い保護されていた11歳の老犬を、我が家に迎え入れました。



福岡から長崎にやって来た!



新しい犬の名前は“ テン ”。

今度はナッツを看取った時以上に、“絶対安心の母性”で看取ってあげようと引き取りました。犬の寿命からすれば一緒に居られるのは数年かもしれません。でも短いからこそ、たくさんの愛を与えたいと思う。看取る覚悟も持てる。

ナッツは私たち夫婦に、自らの死を持って、たくさんの学びと新しい出会いを与えてくれました。ありがとうナッツ・・・・・・・・